



金槐和歌集
本文及び総索引
久保田淳・山口明穂編

笠間索引叢刊 8

凡 例

本書は定家所伝本『金槐和歌集』（鎌倉右大臣家集）を佐佐木信綱博士解説の複製本により翻刻し、それに基づき、歌語索引・詞書索引・和歌（初句・四句）索引を付したものである。

〔本文篇〕

翻刻に際しては、次の方針に従った。

- 1 和歌一首二行書きを一行書きとし、上句と下句との間を一字あきとした。詞書の改行は原本のままとした。
- 2 仮名は通行字体に改め、漢字は原則として正字体を用いた。但し、正字体と当用字体に大きな違いのない場合は当用字体を用いた場合もある。
- 3 合点はそのままとしたが、補入・欠脱の状態などは「原状」に一括して示した。
- 4 清濁を区別し、濁点を適宜ほどこした。
- 5 各面末尾に「」を付し、その丁の裏面が終った箇所（1ウ）のように丁移りを示した。但し、奥書の部分のみ（16オ）と表の面の終りを示した。
- 6 歌頭に通し番号を付した。

〔索引篇〕

1 歌語索引・詞書索引は、集中の、和歌・詞書を構成する全単語の索引である。従って、部立・奥書は対象外である。その単語が使われた和歌の番号によって、当該語を検索するようにした。詞書の場合も、その詞書のかかる和歌の番号によって示した。

2 見出し語は歴史的仮名遣によって表記し、五十音順に配列した。見出し語の下に（ ）を以て漢字を示し、検索の便宜をはかった。漢字をあてにくいものには、（ ）を以て品詞名を記し、識別の便をはかった。なお、活用語の場合は、終止形を以て見出しとし、〔カ四〕〔カ行四段活用〕、〔形ク〕（形容詞ク活用）のように記し、更に活用形によって区分けし、（語幹）（未然）（連用）（終止）（連体）（已然）（命令）の順に配列した。

3 原則として、単語を単位として配列した。ただ、当時の使い方から、数語を以てまとまった単位と考えるのが妥当なものについては、原初的な単位にさかのぼることをしなかった。但し、その場合は、「↓」を以て関連項目を示した。また、参照すべき項目についても、「↓」を以て示した。

4 配列にあたっては、体言・副用言・用言・助動詞・助詞・接尾語の順を原則とした。助詞は、格助詞・接続助詞・係助詞・副助詞・終助詞・間投助詞の六種に分け、この順に並べ、それぞれ〔格助〕のような形式で示した。

5 底本で誤写と推測される場合、「あまのいはせ」「いそらがち」「かて」など、底本のままに従うことを原則とした。ただ、「かへるくる」（六二九番）は、配列の便宜上、「かへりくる」と改めた。

6 歌語索引においては、掛詞は主従を区別せず双方の項目に掲げ、その旨注記した。

7 詞書索引において、漢字によって表記されている歌題の読み方は必ずしも明確でないが、仮名書

きの例より類推して読んだ。この場合、原本には表記されていず、補読した「が」「の」「に」「を」などについては、番号を（ ）で囲み、各項目の最後にまとめた。

なお、歌語索引の素稿は、山口が、愛知教育大学において、昭和42年度の二学年を対象に演習を行なった際に、参加学生と共に、演習教材として作製したものである。今回はそれに補訂を加えてこの形とした。前回に協力を得た諸氏に深く感謝したい。

終りに、本文について複製本の使用を許可された竹柏会並びに同会への斡旋の労をとられた福田秀一氏にお礼申し上げる。

目次

本文篇

春……………三 賀……………翌

夏……………六 恋……………罌

秋……………三 旅……………叁

冬……………毛 雜……………矣

原 状……………七

索引篇

歌 語 索 引……………九

詞 書 索 引……………一四

和 歌 索 引……………一叁

久保田 淳（くぼた じゅん）

東京都に生まれる。東京大学文学部国文学科卒業。白百合女子大学助教授を経て、東京大学文学部助教授（国文学担当）。専攻、中世文学・和歌文学。

著書『藤原家隆集とその研究』（昭和43、三弥井書店）、『千載和歌集』（共編、昭和44、笠間書院）、『中世文学の世界』（昭和47、東大出版会）、『新古今和歌集全評釈』全九巻（昭和51・52、講談社）

山口 明穂（やまぐち あきは）

横浜市に生まれる。東京大学文学部国文学科卒業。愛知教育大学助教授・白百合女子大学教授を経て、東京大学文学部助教授（国語学担当）。専攻、中世国語。

著書『中世国語文語の研究』（昭和51、明治書院）『歌論集一』（共校、昭和46、三弥井書店）、論文「中世語における副詞の表現―助動詞の変化に応じた役割の考察―」（『国語と国文学』昭和52・4）「中世語における格意識の一面」（『松村明教授国語学と国語史』昭和52、明治書院）

金槐和歌集 本文及び総索引

●笠間索引叢刊 8

昭和 58 年 4 月 30 日 初版発行

定価 3,500 円

◎編者 久保田淳・山口明穂

発行者 池田つや子

発行所 有限会社笠間書院

〒101 東京都千代田区猿楽町 2-2-5

電話 03-295-1331 振替東京 1-560002

検 印
省 略

3381-852008-0924

三美印刷・手塚製本所